

日立金属株式会社

2016年度決算

2017年度業績 見通し

2017年4月28日

将来の見通しに関するリスク情報

本資料に掲載されている情報のうち業績予想、事業計画および配当予想等の歴史的事実以外のものは、各資料の作成時点において、予想を行うために合理的であると判断した一定の前提および仮定に基づいており、内在する仮定および状況の変化等により、実際の業績と異なる可能性があります。その要因となる主なものは次のとおりです。

- ・主要市場(特に日本、米州、アジア、欧州)における経済状況および各種規制
- ・急激な技術変化
- ・競争優位性および新技術・新製品の開発・事業化を実現する当社および子会社の能力
- ・製品市場、製品市況の変動
- ・為替相場の変動
- ・国際商品市況の変動
- ・資金調達環境
- ・製品需給、製品市況、為替相場および国際商品市況等の変動に対応する当社および子会社の能力
- ・自社特許の保護および他社特許の利用の確保
- ・製品開発等における他社との提携関係
- ・日本の株式相場の変動

目次

1	2016年度決算
2	2017年度業績 見通し

需要 動向

**世界経済は、先進国を中心に緩やかに回復
国内は、輸出・生産面に鈍さがあるも、雇用・所得環境の
改善を背景に緩やかな回復継続**

- **自動車は、米国で新車販売が高止まりとなったが、
国内需要が年末以降、増加に転じ、中国・欧州で需要伸長
全体としては前年度比で増加**
- **産業インフラ関連は、鉄鋼は世界の鉄鋼需要は停滞するも、
国内で建設部門向け等で明るい兆し
米国・国内住宅着工戸数は増加**
- **エレクトロニクス関連は、家電が国内を中心に需要が増加
携帯端末も年度末に向かって回復**

1-2. 2016年度業績概要①

(金額単位 億円) ()は利益率	2015年度 実績 1\$=120円	2016年度 実績 1\$=108円	前年度 対比	予想比	補足
売上収益	10,176	9,105	△11%	+3%	原材料価格下落(価格スライド制)、為替影響、需要減、事業構造改革により前年度対比減収
調整後営業利益*1	(7.5%) 761	(7.2%) 660	△101	△10	原価低減やモノづくり改革の効果はあったが為替影響、需要減、耐熱鑄造部品の新製品対応により前年度対比減益
その他の収益	364	141	△223		事業再編等利益: 15年度302億円 旧日立ツール他 16年度 85億円 情報システム事業 SHマテリアル他
その他の費用	△ 125	△ 118	+7		
IFRS営業利益	(9.8%) 1,000	(7.5%) 683	△317	+3	
EBIT	991	685	△306	+33	為替差損(期末レート予想100円/ドル→実績112円/ドル)の縮小、持分法投資損益の増加により予想対比で増益
税引前当期利益	962	660	△302	+30	
法人所得税費用	△ 273	△ 153	+120		
親会社株主に帰属する当期利益	691	506	△185	+56	
ROA*2	6.7%	4.9%	△1.8%	+0.3%	
ROE*3	13.9%	9.4%	△4.5%	+0.4%	
海外売上比率*4	56%	56%	—	+1%	

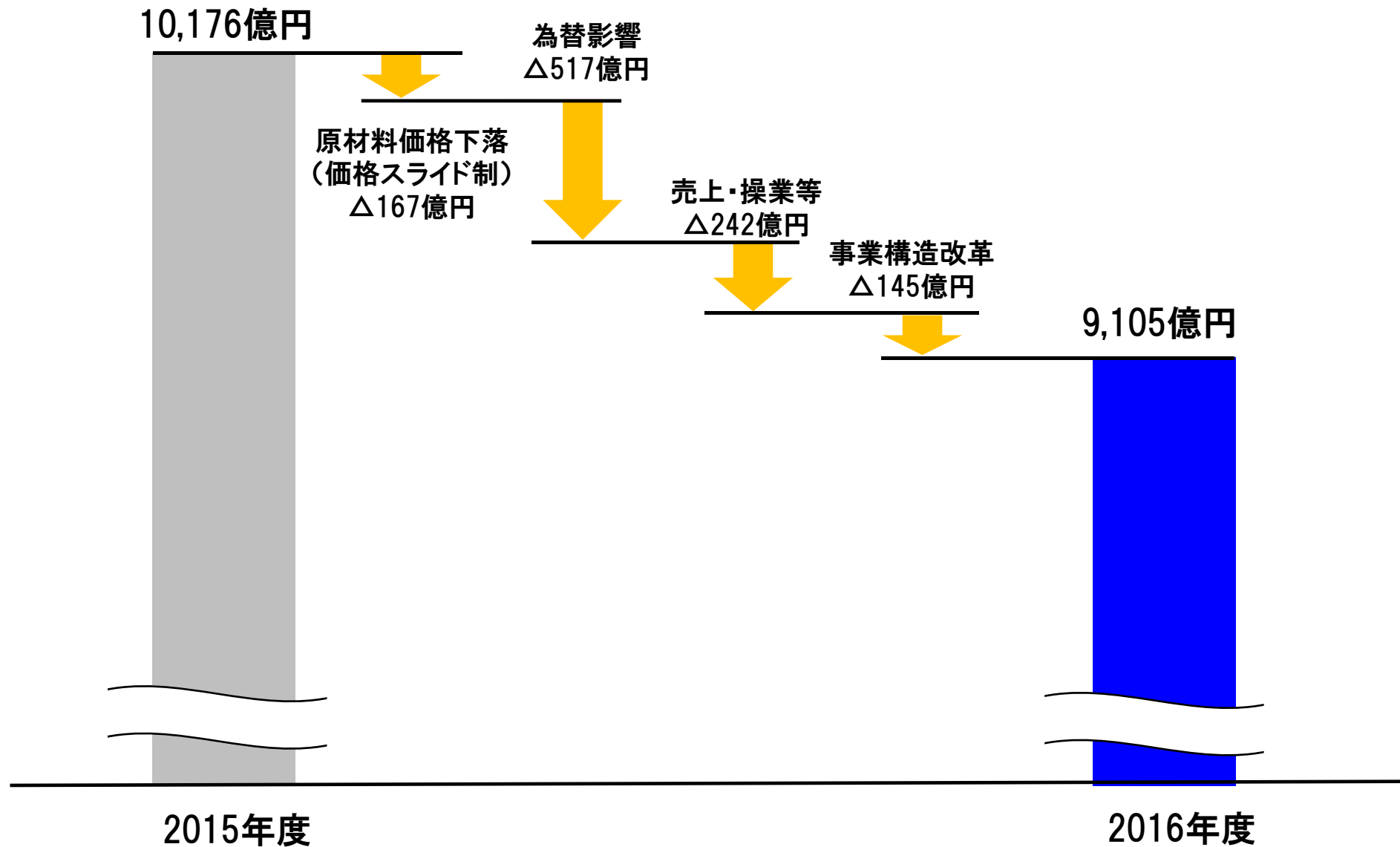
*1 調整後営業利益:(売上収益) - (売上原価) - (販売費及び一般管理費)

*2 期末資産合計当期利益率

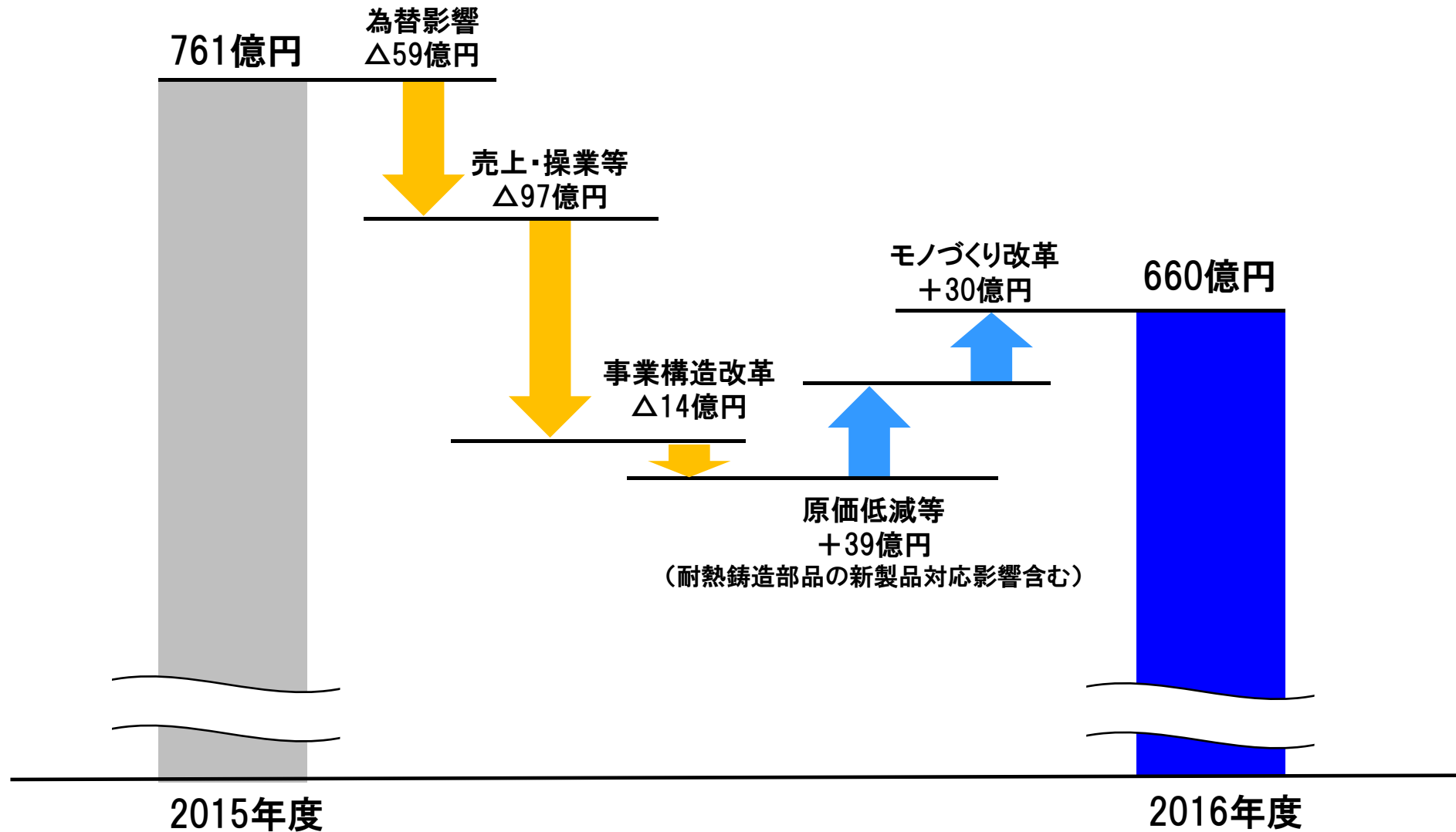
*3 期末親会社株主持分当期利益率

*4 海外売上地域別構成比 16年度:北米31%、中国7%、その他アジア12%、欧州5%、その他1%
15年度:北米31%、中国7%、その他アジア12%、欧州5%、その他1%

1-3. 売上収益の増減要因(前年度対比)



1-4. 調整後営業利益の増減要因(前年度対比)



1-5. 2016年度セグメント別業績

(金額単位 億円) ()は利益率		2015年度 実績 1\$=120円	2016年度 実績 1\$=108円	前年度 対比	予想比
高級金属製品	売上収益	2,567	2,347	△9%	+2%
	調整後営業利益	(10.5%) 270	(10.0%) 235	△35	△5
	セグメント利益	(20.7%) 531	(9.1%) 213	△318	
磁性材料	売上収益	1,053	998	△5%	+4%
	調整後営業利益	(6.6%) 69	(9.3%) 93	+24	+8
	セグメント利益	(6.6%) 70	(9.3%) 93	+23	
高級機能部品	売上収益	3,651	3,335	△9%	+6%
	調整後営業利益	(7.1%) 261	(5.2%) 175	△86	△15
	セグメント利益	(6.5%) 236	(4.8%) 159	△77	
電線材料	売上収益	2,882	2,414	△16%	+2%
	調整後営業利益	(5.2%) 150	(6.1%) 147	△3	△3
	セグメント利益	(5.6%) 160	(8.7%) 210	+50	
その他・調整額	売上収益	23	11	—	—
	調整後営業利益	11	10	△1	+5
	セグメント利益	3	8	+5	
合 計	売上収益	10,176	9,105	△11%	+3%
	調整後営業利益	(7.5%) 761	(7.2%) 660	△101	△10
	IFRS営業利益	(9.8%) 1,000	(7.5%) 683	△317	

備考：2016年度に磁性材料セグメントのうち、軟質磁性材料を高級金属製品セグメントに移管。また、本社負担研究開発費をカンパニー負担に変更。
2015年度実績は上記のセグメント変更後の数値を記載。

1-6. セグメント別業績: 高級金属製品(1)

■全体概況

【売上収益・調整後営業利益】

自動車関連の環境親和製品等の需要が増加したが、アジアを中心とする経済減速の影響や軟磁性材料の中国向け減少により減収・減益

【セグメント利益】

15年度に日立ツール株式会社(現 三菱日立ツール株式会社)の株式を譲渡したことに伴う事業再編等利益270億円を計上

■製品別状況

【特殊鋼】

- ・工具鋼: 第1四半期連結会計期間においてアジアを中心とする経済減速の影響を受けた在庫調整があり、前年度を下回った
- ・産業機器材料: 自動車関連の環境親和製品等の需要が増加したほか、その他産業部材も堅調に推移
- ・航空機関連材料およびエネルギー関連材料: 需要の端境期
- ・電子材料: ディ스플레이関連材料が低調

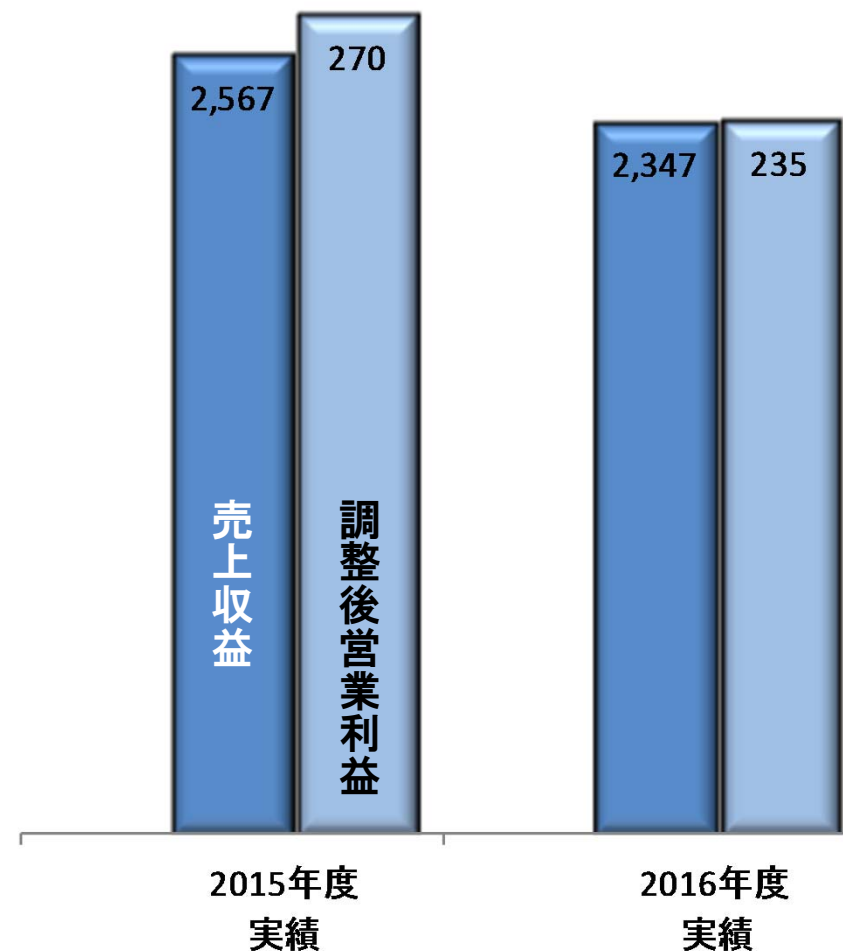
【ロール】

- ・各種ロール: 高付加価値製品に経営資源を集中することを目的に、2016年9月1日をもって宝鋼日立金属軋軋(南通)有限公司の生産を打ち切り
- ・射出成形機用部品: 携帯端末の需要減少の影響を受けた

【アモルファス金属材料】

インド向けが増加したが、中国向けの減少により、全体として前年度を下回った

(金額単位: 億円)



1-7. セグメント別業績：高級金属製品(2)

(金額単位 億円)		2015年度 実績 1\$=120円	2016年度 実績 1\$=108円	前年度 対比	予想比
高級金属製品	売上収益	2,567	2,347	△9%	+2%
	特殊鋼 [◎]	1,971	1,865	△5%	
	工具鋼 [□]			△6%	
	産業機器材料 [□]			+3%	
	航空機・エネルギー [□]			△15%	
	電子材料 [□]			△3%	
	ロール [◎]	256	206	△20%	
	軟磁性部材 [◎]	338	277	△18%	
	調整後営業利益	270	235	△35	△5
	調整後営業利益率	10.5%	10.0%	△0.5%	△0.4%
セグメント利益	531	213	△318		

◎ セグメント間相殺前の単純合計値です。

□ 簡易的な方法により集計した売上収益(金額)の増減比を表示しております。

1-8. セグメント別業績:磁性材料(1)

■全体概況

【売上収益】

下期に入り需要は増加基調に転じたが、原材料価格の下落(価格スライド制)と為替の影響を受け減収

【調整後営業利益】

為替の影響はあったが、好調な需要により、増益

■製品別状況

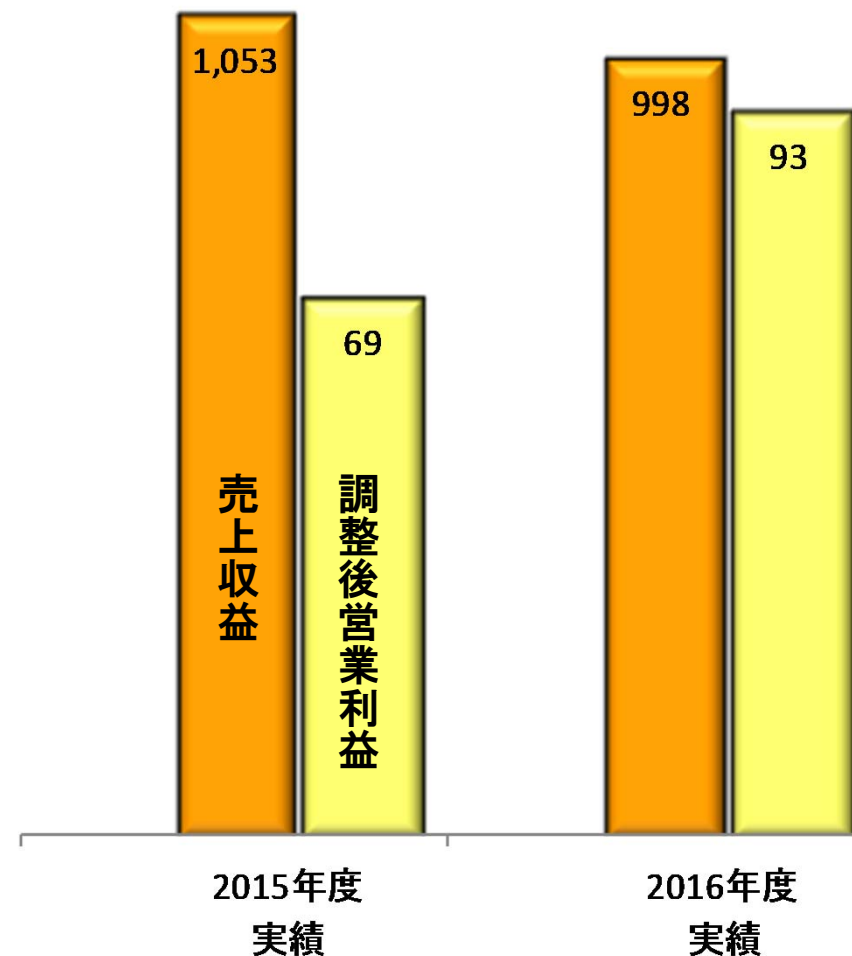
【希土類磁石】

電動パワーステアリングおよびハイブリッド自動車向け等の自動車用電装部品の需要が好調に推移し、産業機器および家電関連の需要も前年度を上回った

【フェライト磁石】

自動車用電装部品、家電用部品ともに好調に推移

(金額単位:億円)



1-9. セグメント別業績：磁性材料(2)

(金額単位 億円)		2015年度 実績 1\$=120円	2016年度 実績 1\$=108円	前年度 対比	予想比
磁性材料	売上収益	1,053	998	△5%	+4%
	希土類磁石(重量)			+14%	
	フェライト磁石(重量)			+5%	
	調整後営業利益	69	93	+24	+8
	調整後営業利益率	6.6%	9.3%	+2.7%	+0.5%
	セグメント利益	70	93	+23	

1-10. セグメント別業績：高級機能部品(1)

(金額単位：億円)

■全体概況

【売上収益】

北米ピックアップトラック向けは高水準を維持したが、農機・建機向けの需要減や為替の影響により、減収

【調整後営業利益】

為替影響に加え、耐熱鑄造部品の加工難易度の高い新製品対応等により、減益

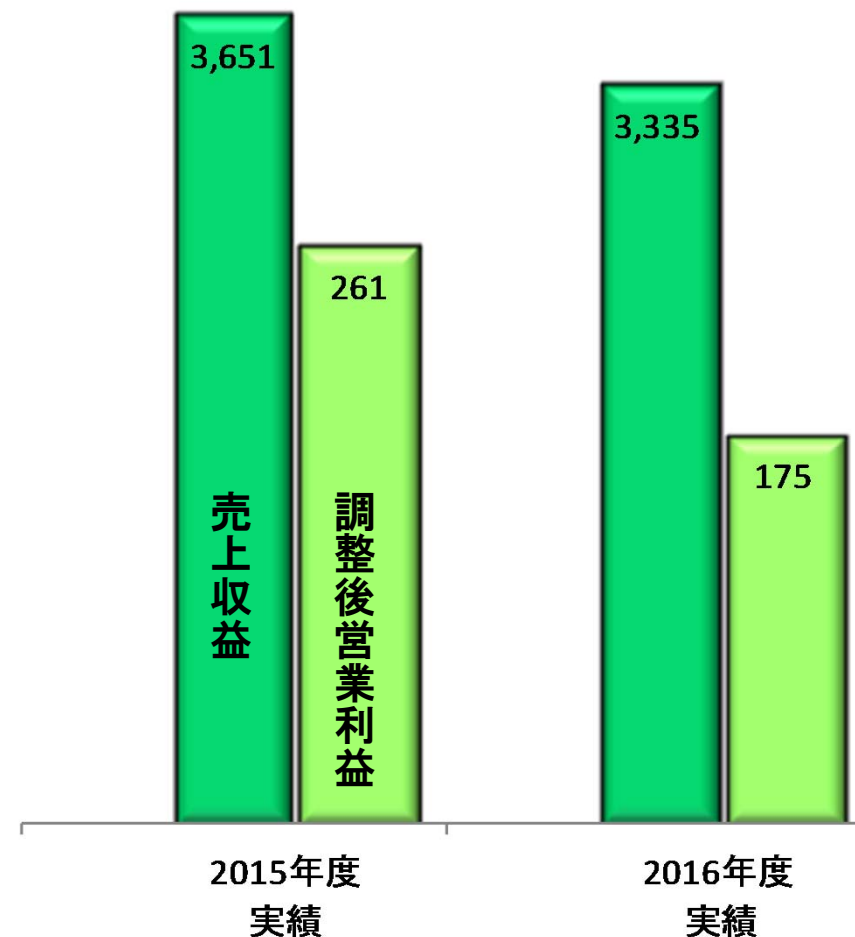
■製品別状況

【自動車用鑄物】

- ・鑄鉄製品：北米において、ピックアップトラック向けは高水準を維持したが、新興国経済の減速や穀物・原油価格が低調に推移した影響等を受け、農業機械・建設機械向けの需要が減少したため、全体として減少
- ・耐熱鑄造部品：米国・アジア向けが大きく伸長し、前年度を上回った
- ・アルミホイール：出荷量が減少したほか、為替相場が円高基調となった影響により、減少

【配管機器】

国内・海外とも住宅着工戸数の増加に伴い住宅向けの需要が順調に推移したが、国内で大規模建設工事の遅れの影響もあり、全体として減少



1-11. セグメント別業績：高級機能部品(2)

(金額単位 億円)		2015年度 実績 1\$=120円	2016年度 実績 1\$=108円	前年度 対比	予想比
高級機能部品	売上収益	3,651	3,335	△9%	+6%
	自動車用鋳物 [◎]	3,153	2,849	△10%	
	鋳鉄製品(重量)			△4%	
	耐熱鋳造部品 ハーキュナイト [®] (重量)			+53%	
	アルミホイール(本数)			△8%	
	配管機器 [◎]	498	486	△2%	
	調整後営業利益	261	175	△86	△15
	調整後営業利益率	7.1%	5.2%	△1.9%	△0.8%
	セグメント利益	236	159	△77	

◎ セグメント間相殺前の単純合計値です。

1-12. セグメント別業績:電線材料(1)

(金額単位:億円)

■全体概況

【売上収益】

鉄道向けは伸長したが、建設向けの減少に加え、構造改革や原材料価格の下落(価格スライド制)の影響により、減収

【調整後営業利益】

建設向け電線は減少したが、鉄道向けの伸長により、前年度並み

【セグメント利益】

事業再編等利益84億円計上(情報システム事業、SHマテリアル)等により増加

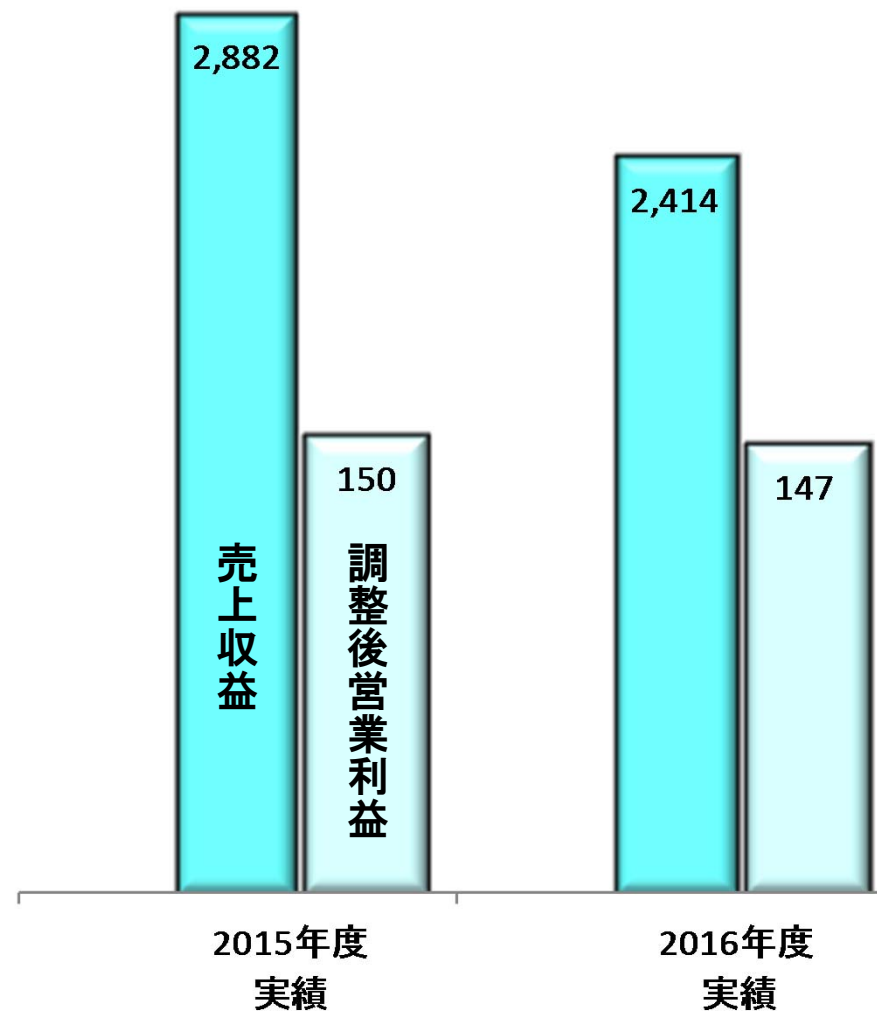
■製品別状況

【電線】

巻線や建設向けが減少したが、注力分野である鉄道車両用電線が中国向けを中心に大きく伸長

【機能品】

- ・自動車部品:自動車用電装部品、ブレーキホースとも堅調
- ・医療用プローブケーブル:海外向けの需要が減少



1-13. セグメント別業績：電線材料(2)

(金額単位 億円)		2015年度 実績 1\$=120円	2016年度 実績 1\$=108円	前年度 対比	予想比
電線材料	売上収益	2,882	2,414	△16%	+2%
	鉄道 [□]			+11%	
	医療 [□]			△12%	
	電装部品 [□]			△1%	
	調整後営業利益	150	147	△3	△3
	調整後営業利益率	5.2%	6.1%	+0.9%	△0.3%
	セグメント利益	160	210	+50	

□ 簡易的な方法により集計した売上収益(金額)の増減比を表示しております。

1-14. 資産/負債・純資産

(金額単位 億円)	2015年度末	2016年度末	増減
資産合計	10,333	10,404	+71
うち売上債権及び棚卸資産	3,252	3,291	+39
負債合計	5,286	4,916	△370
うち有利子負債	2,204	1,945	△259
親会社株主持分	4,959	5,366	+407
非支配持分	88	122	+34
親会社株主持分比率	48.0%	51.6%	+3.6%
D/Eレシオ(倍)	0.44	0.36	△0.08

【資産】 2015年度末比 71億円増加

⇒持分法適用会社(SHカップープロダクツ)の
100%子会社化等により増加

【負債】 2015年度末比370億円減少

⇒借入金返済等により減少

【D/Eレシオ】 2015年度末比0.08倍改善

1-15. 連結キャッシュ・フロー

(金額単位 億円)	2015年度 実績	2016年度 実績	前年度対比
営業活動に関するキャッシュ・フロー	1,157	894	△263
投資活動に関するキャッシュ・フロー	△ 321	△ 359	△38
フリー・キャッシュ・フロー	836	535	△301
コア・フリー・キャッシュ・フロー*	580	242	△338

【営業キャッシュ・フロー】

当期利益の減少等により、前年度比263億円の減少

【投資キャッシュ・フロー】

有形固定資産の取得が増加(2015年度536億円→2016年度631億円)

2015年度は旧日立ツール株式売却による収入があったが、2016年度も情報システム事業譲渡や持分法適用会社(SHマテリアル)の株式譲渡に伴う収入があり、前年度比38億円の減少に留まる

【フリー・キャッシュ・フロー】

営業キャッシュ・フロー減少に伴い、前年度比301億円の減少

* コア・フリー・キャッシュ・フロー:(営業活動に関するキャッシュ・フロー) - (資本的支出)

1	2016年度決算
2	2017年度業績 見通し

2-1. 2017年度業績見通しの前提

- 世界経済は、各国政策の不確実性による影響や中国をはじめとする新興国経済のさらなる成長鈍化への懸念があるも、先進国を中心に緩やかな回復が継続すると見込まれる。

自動車はグローバルでは伸長が見込まれるものの、主力マーケットである北米では、前年を若干下回る見込み。

産業インフラ関連は、鉄鋼は国内を中心に需要回復の兆しがみられる。

エレクトロニクス関連は、携帯端末の需要回復など、増加を見込んでいる。

- 原材料・原油等資源価格は、足元の状況が継続することが見込まれる。

- 想定為替レート:110円/ドル、116円/ユーロ、15.8円/元

- セグメント名称を2017年4月より変更

高級金属製品→特殊鋼製品

高級機能部品→素形材製品

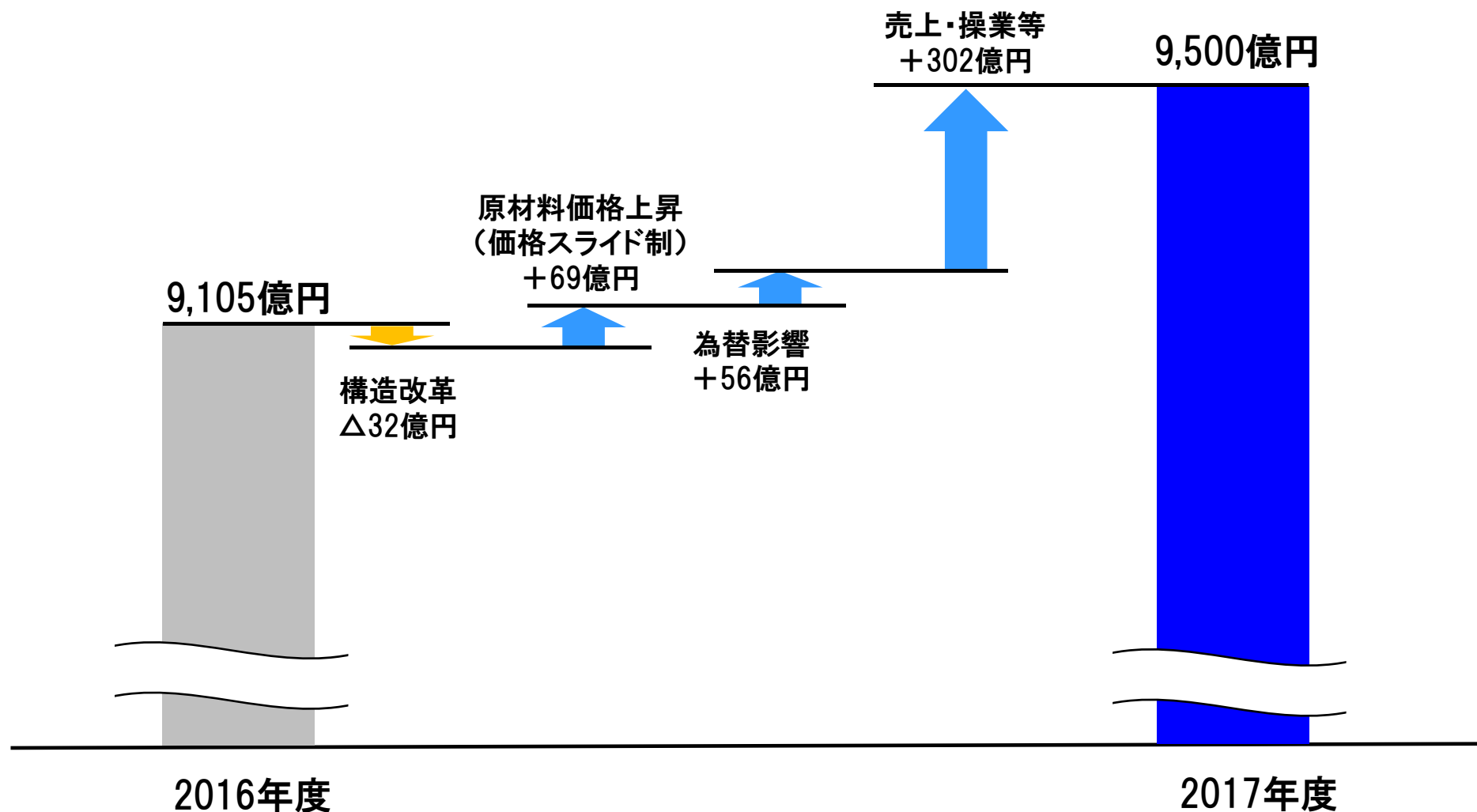
2-2. 2017年度業績予想

(金額単位 億円) ()は利益率	2016年度 実績 1\$=108円	2017年度 予想 1\$=110円	前年度 対比
売上収益	9,105	9,500	+4%
調整後営業利益	(7.2%) 660	(8.4%) 800	+140
EBIT	685	660	△25
税引前当期利益	660	630	△30
親会社株主に帰属する当期利益	506	450	△56
ROA*1	4.9%	4.3%	△0.6%
ROE*2	9.4%	8.1%	△1.3%
海外売上比率	56%	56%	—

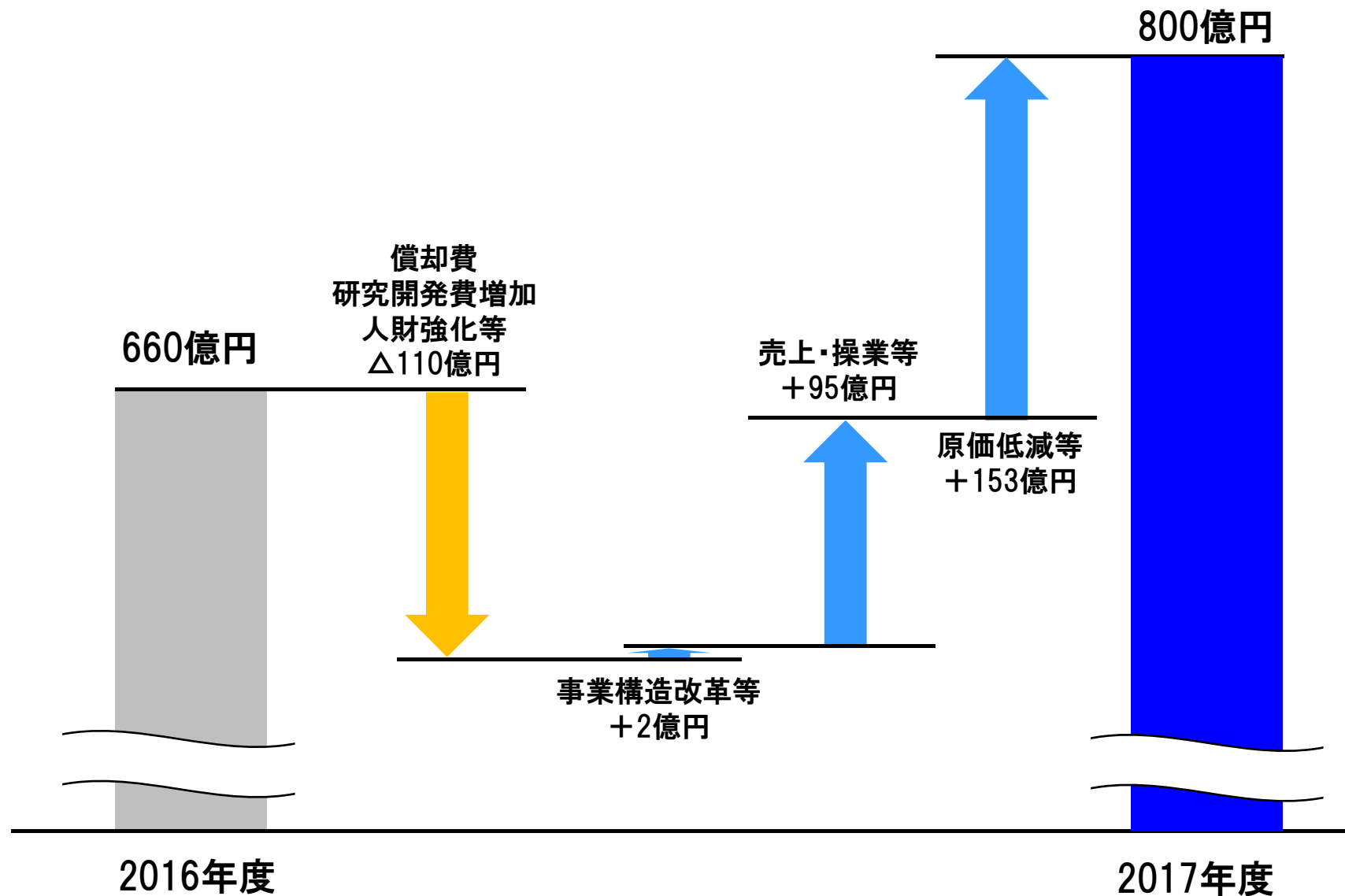
*1 期末資産合計当期利益率

*2 期末親会社株主持分当期利益率

2-3. 売上収益の増減要因(前年度比)



2-4. 調整後営業利益の増減要因(前年度比)



2-5. 設備投資

新製品 ・ 増産	工具鋼・航空機・エネルギー関連製品増産 (2017年度完成) ターボ用タービンホイール増産 (2017年度～2019年度実行) 日立金属三環磁材(南通)有限公司を設立 (2017年4月稼働開始) 磁性材料(希土類磁石・フェライト磁石)革新的ライン導入 (2018年度上期稼働開始)
合理化 ・ 更新	電線材料事業 連続鋳造圧延ラインの合理化投資 (2017年度完成) 耐熱鋳造部品の生産性改善 (2017年度完成)
基盤強化	コーポレート研究所「グローバル技術革新センターGRIT」建設 (2018年3月竣工) IoTプラットフォーム整備(見える化・データアナリシス強化等)

設備投資額 638億円(2016年度) ⇒ 900億円(2017年度)

2-6. 2017年度業績予想(セグメント別)

(金額単位 億円)		2016年度 実績 1\$=108円	2017年度 予想 1\$=110円	前年度 対比	補 足
特殊鋼製品*1	売上収益	2,347	2,500	+7%	工具鋼はグローバルに需要回復の見込み 自動車関連の環境親和製品等は需要増加の見込み 半導体などエレクトロニクス関連製品の需要は回復を見込む
	調整後営業利益	235	300	+65	
	調整後営業利益率	10.0%	12.0%	+2.0%	
磁性材料	売上収益	998	1,100	+10%	電動パワーステアリングおよびハイブリッド自動車向け等の自動車用電装部品の需要が好調に推移 FA関連も好調を見込む
	調整後営業利益	93	115	+22	
	調整後営業利益率	9.3%	10.5%	+1.2%	
素形材製品*2	売上収益	3,335	3,400	+2%	鋳鉄製品は2016年度並を見込むが、耐熱鋳造部品が引き続き増加 耐熱鋳造部品の生産性改善による増加を見込む
	調整後営業利益	175	215	+40	
	調整後営業利益率	5.2%	6.3%	+1.1%	
電線材料	売上収益	2,414	2,500	+4%	鉄道車両用電線が引き続き中国を中心に好調を維持 医療向けも回復を見込む 電装部品は好調に推移する見込み
	調整後営業利益	147	170	+23	
	調整後営業利益率	6.1%	6.8%	+0.7%	
その他・調整額	売上収益	11	0		
	調整後営業利益	10	0		
合 計	売上収益	9,105	9,500	+4%	
	調整後営業利益	660	800	+140	
	調整後営業利益率	7.2%	8.4%	+1.2%	

*1 2017年4月より高級金属製品から名称変更

*2 2017年4月より高級機能部品から名称変更

参考データ(1)

(金額単位 億円)	2013年度 実績 1\$=100円	2014年度 実績 1\$=110円	2015年度 実績 1\$=120円	2016年度 実績 1\$=108円	2017年度 予想 1\$=110円
	IFRS	IFRS	IFRS	IFRS	IFRS
売上収益	8,078	10,044	10,176	9,105	9,500
調整後営業利益	639	844	761	660	800
調整後営業利益率	7.9%	8.4%	7.5%	7.2%	8.4%
その他の収益	58	213	364	141	
その他の費用	△ 163	△ 213	△ 125	△ 118	
IFRS営業利益	534	844	1,000	683	
EBIT	575	886	991	685	660
税引前当期利益	558	864	962	660	630
親会社株主に帰属する当期利益	481	706	691	506	450
有利子負債	1,772	2,554	2,204	1,945	
設備投資額	320	515	596	638	900
減価償却費 ^{*1}	338	399	429	430	470
研究開発費	168	209	191	180	200
D/Eレシオ(倍)	0.48	0.55	0.44	0.36	0.30
1株当たり当期利益(円)	116.79	165.02	161.50	118.32	105.24
1株当たり配当金(円)	17.0	23.0	26.0	26.0	26.0
1株当たり親会社株主持分(円)	870.4	1,090.6	1,159.7	1,254.9	1,333.1
人 員(人)	26,850	30,278	29,157	28,754	29,500
ROA ^{*2}	5.7%	6.5%	6.7%	4.9%	4.3%
ROE ^{*3}	12.9%	15.1%	13.9%	9.4%	8.1%
海外売上比率	42%	47%	56%	56%	56%

- *1 無形資産償却費も含む
- *2 期末資産合計当期利益率
- *3 期末親会社株主持分当期利益率

参考データ(2)

主要製品 重量動向

製品		16年度実績/15年度 実績対比	17年度予想/16年度 実績対比
特殊鋼	工具鋼	0%	+5% 強
	CVTベルト材	+7%	+15% 弱
	ピストンリング材	+8%	+10% 強
磁石	希土類磁石	+14%	+10% 強
素形材	鋳鉄製品	△4%	前年度並
	耐熱鋳造部品 ハーキュナイト®	+53%	+50% 弱
	アルミホイール(本数)	△8%	若干増

(参考) マーケット分野別事業構造



(参考) 日立金属 セグメント別事業内容(2017年4月1日～)

■日立金属の事業構造

事業セグメント	事業部門	主要製品
 特殊鋼製品	特殊鋼カンパニー	
	特殊鋼	高級特殊鋼[YSSヤスキハガネ](工具鋼、電子材料、〈ディスプレイ関連材料、半導体等パッケージ材料、電池用材料)、産業機器材料〈自動車関連材料、剃刃材および刃物材〉、航空機・エネルギー関連材料、精密铸造品) ※YSS、ヤスキハガネは日立金属の登録商標です。
	ロール	各種圧延用ロール、射出成形機用部品、構造用セラミックス部品、鉄骨構造部品
	軟磁性部材	軟質磁性材料(アモルファス金属材料[Metglas®]、ナノ結晶軟磁性材料[ファインメット®]、ソフトフェライト)およびその応用品
 磁性材料	磁性材料カンパニー	
	マグネット・応用品	マグネット(希土類磁石[NEOMAX®]、フェライト磁石、その他各種磁石およびその応用品)、セラミックス製品
 素形材製品	素形材カンパニー	
	自動車機器	自動車用鋳物(高級ダクタイル鋳鉄製品 [HNM®]、輸送機器向け鋳鉄製品、排気系耐熱鋳造部品 [ハーキュナイト®])、アルミホイール [SCUBA®]、その他アルミニウム部品
	配管機器	設備配管機器(☞®印各種管継手、ステンレスおよびプラスチック配管機器、冷水供給機器、精密流体制御機器、密閉式膨張タンク)
 電線材料	電線材料カンパニー	
	電線	産業用電線、機器用電線、電機材料、工業用ゴム
	機能品	ケーブル加工品、自動車用電装部品、ブレーキホース